

IDG LinuxWorld ONLINE

月刊誌の紹介 オンライショッップ 購読者 IDGジャパンのサービス

Linux OnLine

LinuxWorldとは 編集者より バックナンバー 不定期購読の申込

- トップページ
- コマンド制御への道
- /etcナビゲーション
- Linux用語集
- フリーソフト辞典
- Linuxインストール・ガイド
- ショップ
- ニュース&コラム
- 読者プレゼント
- 月刊リナックスワールド連載
- 最新号のご案内
- メール配信サービス

Fedora Core 1 インストール・ガイド

ここでは、月刊リナックスワールド2004年1月号や別冊のリナックスワールドベストセレクト2の付録CD-ROMに収録されている「Fedora Core 1」のインストール方法を紹介します。Fedora Core 1は、2003年11月にリリースされたLinuxディストリビューションで、Red Hat Linux 9の後継OSに当たる。なお、Fedora Core 1が誕生した背景やその特徴については、月刊リナックスワールド2004年1月号の特集「Red Hat Linuxユーザーに贈る緊急レポート『Fedoraに移行すべきか否か』」に詳しく解説されている。

インストール作業を開始する前に


Fedora Core 1のインストール作業を開始する前に、利用するPCが、表1の動作条件を満たしているかどうかを確認されたい。また、インストールするrpmパッケージの数などによって動作条件は変わってくるので、その点をご注意いただきたい。以下では、Windowsなど他のOSがインストールされていないマシンに、Fedora Core 1をインストールする方法を解説する。

表1: Fedora Core 1の動作条件

CPU	Linuxをテキスト・モードで利用する場合は200MHz/Pentium以上、グラフィックス・モードで利用する場合は400MHz/PentiumII以上を推奨
メモリ	256MB以上を推奨
ハードディスク	パーソナル・デスクトップとして動作させる場合は1.9GB、ワークステーションの場合は2.4GB、サーバの場合は870MBが必要。フルインストールする(CD-ROMに含まれるすべての内容をインストールする)場合は、5.3GBが必要
CD-ROMドライブ	CD-ROMブートが可能なCD-ROMドライブ

CD-ROMブートによるインストール手順

インストーラの起動




インストールCD(付録CD-ROMのDISC1)をPCのドライブに挿入して電源を入れる。画面下方に「boot:」というプロンプトが表示されたらEnterキーを押す。

インストール①のチェック



まず、インストールCDの破損チェックを行うかどうかを尋ねられる。このチェックは本誌編集部ですでに実施済みのため、ここではチェックは行わず、Tabキーで「Skip」を選択し、スペース・キーを押せばよい。

インストールの設定を開始



画面左の枠内に「Welcome to Fedora Core」という文字が表示されたら、「Next」ボタンをクリックする。

インストーラが表示する言語の選択



ここでは、インストーラで表示される言語を日本語にするため、「Japanese (日本語)」を選択し、「Next」ボタンをクリックする。

キーボードの設定



ここでは、使用するキーボードのキー配列を一覧から選択する。

日本語キーボードを使用している場合は、「Japanese」が選択された初期設定のまま「次」ボタンをクリックすればよい。

マウスの設定



使用するマウスのタイプを一覧から選択する。PS/2タイプのホイール・マウス(画面をスクロールするための回転ボタンが付いているマウス)を使用する場合は「Wheel Mouse (PS/2)」を、PS/2タイプの2ボタン・マウスを使用する場合は「2 Button Mouse (PS/2)」を選択する。

Linuxでは3ボタン・マウスの中央ボタンを使用するケースが多い。そのため、「2 Button Mouse (PS/2)」を使用する場合は、画面下部の「3ボタンマウスのエミュレート」のチェック・ボックスもチェックしておくとい。ここをチェックしておく、2ボタン・マウスの左右のボタンを同時に押すことで、3ボタンの中央ボタンを押すのと同じ効果が得られるようになる。マウスの設定が終了したら、「次」ボタンをクリックする。

モニター型番の選択



この画面では、使用するモニターの型番を一覧から探して選択する。

モニターの型番が一覧に含まれていない場合、使用しているモニターがCRTモニターであれば「Generic CRT Display」という項目を選択。それによって表示される一覧から、自分のモニターに適した項目(表示可能な解像度などを確認する)を選択する。液晶モニターの場合は、「Generic LCD Display」という項目を選択し、自分のモニターで表示可能な解像度を選べばよい。自分のモニターに適した項目は、モニターのマニュアルに記載されているスペック・データを参照すればわかるはずだ。

モニターの型番を選択したら、「次」ボタンをクリックする。

UP | NEXT

Copyright © 2003 Japan, Inc. All Rights Reserved



- トップページ
- コマンド解説への道
- !etcナビゲーション
- Linux用語集 4202項
- フリー・ソフト辞典
- Linuxインストール・ガイド
- ショップ
- ニュース&コラム
- 読者プレゼント 4204冊
- 月刊リナックスワールド運動
- 最新号のご案内
- メール配信サービス 4204冊

Fedora Core 1 インストール・ガイド

インストール・タイプの選択



Fedora Core 1をデスクトップ用途で使用する場合は「パーソナルデスクトップ」を選択する。開発用途の場合は「ワークステーション」を、サーバ用途の場合は「サーバー」を、インストールするパッケージ群を手動で選択する場合は「カスタム」を選択する。
本稿では、「パーソナルデスクトップ」を選択したものと説明を進める。

パーティションの設定方法の選択



ここでは、ハードディスクに作成するパーティションの設定方法を選択する。Linuxには、Linuxシステム用と、プログラムの実行中にメモリが不足した場合に使用されるスワップ用の、最低2つのパーティションが必要だ。ここでは、「自動パーティション設定」のラジオ

ボタンをチェックして、「次」ボタンをクリックする。すると、この後にインストーラがLinuxシステム用、スワップ用、Linuxカーネル格納用という3つのパーティションを自動設定する。
なお、手動でパーティションを作成したい場合は、「Disk Druidを使用して手動パーティション設定」を選択する。

パーティションの既定



本稿では、マシンをFedora Core 1専用にするを想定している。そのためここでは、「システムのすべてのパーティションを削除」のラジオボタンをチェックし、「次」ボタンをクリックする。すると、ハードディスク内にあるすべてのパーティションを削除してよいかどうかを確認する画面が表示される。その画面で「はい」ボタンをクリックする。
それにより、インストーラはハードディスク内の既存のパーティションをすべて削除し、Linux用パーティションを設定する。

ブート・ローダの設定



ここでは、ブートローダ(OSを起動するためのプログラム)の設定を行う。通常は、初期状態のまま「次」ボタンをクリックして次の画面に進んでよい。
ただし、ブートローダをインストールしない場合(後述する「起動ディスクの作成」で作成する起動用フロッピーディスクでシステムの起動を行う場合など)は、「ブートローダを変更」ボタンをクリック

して、その設定を行う。

また、ブート・ローダは、初期状態ではMBR(マスタ・ブート・レコード)にインストールされる。ブート・ローダのインストール先を変更したい場合は、「高度なブートローダオプションの設定」のチェック・ボックスをチェックした後、「次」ボタンをクリックする。すると、次に表示される画面でブート・ローダのインストール場所を変更できる。

本稿では、初期状態のまま「次」ボタンをクリックしたものととして説明を続ける。

ネットワークの設定



この画面は、インストーラによってネットワーク・アダプタ(ネットワーク・カードやネットワーク・チップなど)が検出された場合に表示される。

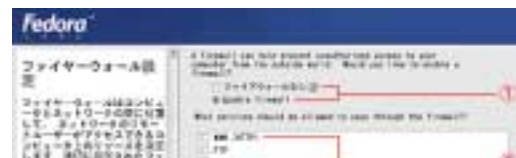
DHCPを使ってIPアドレスなどのネットワーク情報を取得する場合は、「DHCP経由で自動設定」のラジオ・ボタンをチェックする。これまでにWindowsを利用して、特にIPアドレスの設定を行った覚えがなければこのボタンをチェックして問題ないだろう。

ネットワーク情報を手動で設定する場合は、まず「編集」ボタンをクリックする。すると、この画面上に別の小画面が表示されるので、そこで「DHCPを使用して設定」のチェックを外し、IPアドレスとネットマスクのアドレスを入力する。アドレスを入力したら「OK」ボタンをクリックする。

このあと、「ネットワークの設定」画面で「手動設定」のラジオ・ボタンをチェックし、その右の欄にこのマシンに付けるホスト名を入力する。最後に、「ゲートウェイ」の項目にゲートウェイ・マシンのIPアドレスを、「1番目のDNS」の項目にDNSサーバ・マシンのIPアドレスを入力する。また、必要に応じて、そのあとの「2番目のDNS」や「3番目のDNS」にも各DNSサーバ・マシンのIPアドレスを入力する。通常、ここで入力するIPアドレスやホスト名は、管理者から割りふられたもの(自分が管理者であれば自分で決めたもの)を入力する。

本稿では、「DHCP経由で自動設定」のボタンをチェックしたものととして説明を進める。

ファイアウォールの設定



この画面では、ファイアウォールの設定を行う。最初に、①からファイアウォールを動作させるかどうかを選択する。「ファイアウォールなし」は、ファイアウォールが動作しないようにする設定。これを選んだ場合、他のマシンからのネットワーク接続はまったく制限されなくなる。もう1つの「Enable firewall」はファイアウォールを動作させる設定だ。通常は「Enable firewall」のラジオ・ボタンをチェックする。

「Enable firewall」を選択した場合、②の一覧から他のマシンからの接続を許可するサービスを設定する。FedoraをインストールするマシンでWebサーバを立ち上げる場合は「WWW(HTTP)」のボタンにチェックを入れ、FTPサーバを起動させる場合は「FTP」、SSHを使ったりリモート・マシンからの接続を行う場合は「SSH」にチェックを入れればよい。

なお、マシンに搭載されているネットワーク・カードが1枚のときは、③の「eth0」のボックスにチェックを入れてはならない。その場合、すべての通信データを無条件で受け入れるようになってしまうからだ。

以上の設定を行ったら「次」ボタンをクリックする。

◀ BACK | UP | ▶ NEXT

Fedora Core 1 インストール・ガイド

使用する言語の選択

Fedora Core 1の画面表示を日本語にする場合、「システム標準の言語を選択して下さい」のメニューで「Japanese」が、「システムにインストールする追加言語を選択して下さい」のメニューで「Japanese」のチェック・ボックスがチェックされていることを確認する。このように表示されるのは、先に「インストーラが表示する言語の選択」でインストーラの表示言語に日本語を設定したからである。

日本語以外の言語も使用する場合は、それらの言語のチェック・ボックスも併せてチェックする。使用する言語を選択したら、「次」ボタンをクリックする。

タイム・ゾーンを選択

Linuxがインストールされたマシンを日本で使用する場合は、「アジア/東京」が選択された初期設定のまま「次」ボタンをクリックする。

システム管理者のパスワードの設定



Linuxでは、rootというログイン名のユーザーでシステム管理を行う。ここでは、そのrootのパスワードを設定する。

そのためには、「Rootパスワード」と「確認」の欄に、6文字以上の同じパスワードを入力する。このとき、見破られやすい簡単なパスワードは避けること。パスワードを入力したら、「次」ボタンをクリックする。

パッケージ・グループの確認



本稿では、「インストール・タイプの選択」で「パーソナルデスクトップ」を選択した。

そのため、この画面には、「パーソナルデスクトップ」の選択によってインストールされるパッケージ群の一覧が表示される。ここでは、「デフォルトのソフトウェアをインストール」のラジオ・ボタンをチェックし、「次」ボタンをクリックする。

rpmパッケージのインストール開始



この画面で「次」ボタンをクリックすると、パーティションのフォーマットとパッケージのインストールが行われる。途中でCD-ROMを入れ替えるよう指示されるので、適宜入れ替えてインストールを進める。

起動ディスクの作成



パッケージのインストールが終わったら、Linuxを起動するためのフロッピーディスク(以下、起動ディスク)を作成する。

通常、Linuxはハードディスクから起動するため、起動ディスクは必要ない。しかし、何らかのトラブルが発生して、Linuxがハードディスクから起動しなくなったときには、この起動ディスクからLinuxを起動できる場合がある。したがって、起動ディスクは作成しておいたほうがよい。

起動ディスクを作成するには、まず、マシンにフロッピーディスクをセットする。続いて、「はい、ブートディスクを作成したいです」のラジオ・ボタンをチェックし、「次」ボタンをクリックする。すると、別のウィンドウが表示されるので、そのウィンドウの「ブートディスクを作成」ボタンをクリックする。

これで起動ディスクの作成が始まる。起動ディスクが作成されると、自動的に次の画面が表示される。

インストールの終了



この画面が表示され、インストールCDが自動的に排出されれば、インストールは終了だ。「Reboot」ボタンをクリックすると、マシンが再起動する。このとき、「起動ディスクの作成」で作成した起動ディスクもマシンから抜いておく。

Fedora Core 1の起動



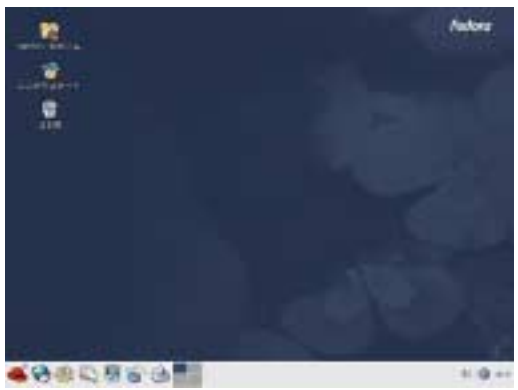
マシンが再起動すると、ブートローダGRUBの画面が表示される。この画面でEnterキーを押すとFedora Core 1が起動する。Enterキーを押さなくても10秒が経過すると、自動的にFedora Core 1の起動が開始される。

起動が完了すると、時刻の設定やユーザーの登録などを対話形式で行うセットアップ・エージェントが立ち上がる。セットアップを終えるとログイン画面が表示される(画面1)。ここで、セットアップ中に登録したユーザー名とパスワードを順次入力すると、Fedora Core 1のデスクトップ画面が表示され、Fedora Core 1を利用できるようになる(画面2)。





画面1: Fedora Core 1のログイン画面



画面2: Fedora Core 1のデスクトップ画面

◀BACK | ↑UP

Copyright © 2004 Idg Japan, Inc. All Rights Reserved.